

新学習指導要領の実施が2022年度に迫る中、21年度は、新課程に向けた計画とその実践を通じた授業と評価の改善が求められる。新課程初年度に向け、実践事例や解説記事により現場の疑問や課題を解決し、自校の計画・実践につながる情報を提供する。

— 疑問や課題を解決！実践につながる！ —

新課程レポート

ベネッセ教育情報センター

テーマ

新課程1期生入学に向けた観点別評価

セミナーレポート

ウェブセミナー 新課程1期生入学に向けた学びの設計と実践 第5回 「生徒の学びが変わる 学習評価のこれから」レポート

2022年度からの新教育課程における観点別学習状況の評価（以下、観点別評価）の実施に向けて、各校で準備が進んでいるが、評価観の転換や具体的な評価、評定換算の設計などについて悩みを抱えている教師は少なくない。22年度入学生を迎えるにあたって、学習評価の改善や見直しを支援するため、ベネッセ教育情報センターは21年8月、ウェブセミナーを開催した。

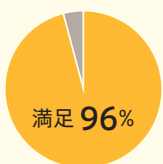
学習評価に関する 現場の悩みに答える

学習評価に関する高校現場の悩みは多岐にわたるが、「知識・技能、思考・判断・表現、主体的に学習に取り組む態度の3観点をどのように評価すればよいか」と「観点別評価と評定をどのようにひもづければよいか」の2点は、特に課題感が高い。ウェブセミナーでは、その2点の課題感に焦点をあて、青森県立青森高校の実践事例報告を始め、様々な取り組み事例を交えて解説した。新課程で求められるのは、評価観の転換だ。それは、「できないことを自覚する評価」だけでなく「できるかもしれないと

生徒が前向きになる評価」に変わることであり、他者と比較して自分が「どれくらいできているか」という左右の視点での比較に加え、過去の自分と比較して「どれだけできるようになったか」という前後の視点での比較も取り入れるということである。それを踏まえ、これまでの取り組みを生かすことができる3観点の評価方法と、運用しやすい観点別評価と評定のひもづけの仕方考えた。参加者からは、具体的な事例が多く、今後の見通しが立ったといった声が多く上がった。次ページ以降の内容から、自校に必要な考え方や情報を確認していただきたい。

ウェブセミナー参加者の声 ※720人のアンケート結果より

ウェブセミナーの満足度



◎実践事例の紹介が豊富、かつ具体的であったため、今後取り組むことが考えやすかった。今後半年間の準備の負担を心配していた自分にとっては、ありがたいものであった。

◎難しく考えずに、今あるものからアップデートするような形で進めていけば、今あるものを活用して評価をする規準づくりができることが分かった。少し肩の力を抜いて、ベースづくりを急いでいこうと改めて思った。

Webセミナーの詳細はVIEWn-expressでご視聴いただくことができます。
講演スライドもダウンロードいただけます。ぜひご覧ください。

<https://berd.benesse.jp/magazine/express/kou/08/>



評価という空白領域

青森県立青森高校 笠井敦司

「目的・手段」の視点で
授業・評価・評定をつなぐ

青森高校・笠井敦司先生の講演では、まず、これからの学習評価では、結果の査定・判定から、生徒の学びのプロセスと伸びしろを見取るものへと、評価観の転換が必要であること、学習評価をカリキュラム・マネジメントに構造的に位置づけ、その重要性を理解することなど、評価の定義と位置づけについて確認した。笠井先生が強調したのは、評価の目的（何のために）と評価の手段（何によつ

教職歴25年。同校に赴任して10年目。国語科。17年度より進路指導主事を3年間務め、20年度より教務主任。



青森県立青森高校 教務主任 笠井敦司 かいし・あつし

図1 シラバスから単元ごと自己評価シートへ
〈目的と手段をつなぐ〉

て）をつなぎ、目指す生徒像の実に近づけていくことだ。目的と手段の一体化の視点で教育活動を検証することで、自校の課題を可視化でき、学習評価の重要性に気づくことができると語った。

次に笠井先生が説明したのは、「逆向き設計」による指導と評価の検討状況を紹介した。同校では、

一体化」だ。資質・能力を育むための重要なステップとして詳説したのが、シラバスの改訂とそれに基づく単元ごとの観点別自己評価シートの作成、そして授業・定期考査の改善だ。単元ごと自己評価シートは、シラバスで示されている目標をより具体化して生徒に示すことで振り返りを促し、次の学習への見通しを立てさせる設計にしている（図1）。

* 学校資料をそのまま掲載

3 観点の評価方法は？

3 観点の特性を踏まえ、 評価方法を検討する

す資質・能力「青高力」を設定し、各教科で育成を目指す資質・能力と評価計画をシラバスに落とし込み、授業や評価を実践している(図2)。具体的な評価の実践の前に、どのような資質・能力を各教科・科目で育成・評価するのかを明確にすることは、評価のあり方を考える上で欠かせない。ただ、新課程1期生の入学までに、3学年分のシラバスをゼロから作成するのは困難だ。例えば、1学年ずつ順番に進んでシラバスを作成するなど、各校で必要な内容を、進めやすい方法で検討することが重要である。

青森高校・笠井先生の講演後、同校を含めた複数の学校の事例を基に評価のポイントを整理した。まず、3観点を、これまでの自校の取り組みを生かしながらどのようなに評価していけばよいのか、「知識・技能と思考・判断・表現」、「主体的に学習に取り組む態度」の2

つに分けて解説した。青森高校では、校内テストにおいて、知識・技能に重点を置いた設問と、思考力に重点を置いた設問の出題割合を決めている。作問にあたって、「思考力・判断力・表現力に重点を置いた設問は、知識を手段として抽象度の高い概念の説明をするもの」といったように、教師間で目線合わせをしている(図3)。校内テストを観点別に評価するため

めのステップについても紹介したが(図4)、まずは現状の校内テストの設問を3観点で分類してみるとよいだろう。

図2 青森高校の取り組み全体像



図3 思考力・判断力・表現力をペーパーテストで評価する方法 (青森高校)

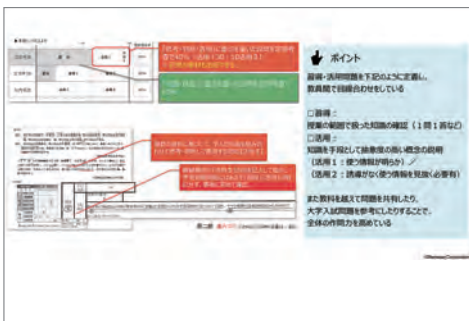
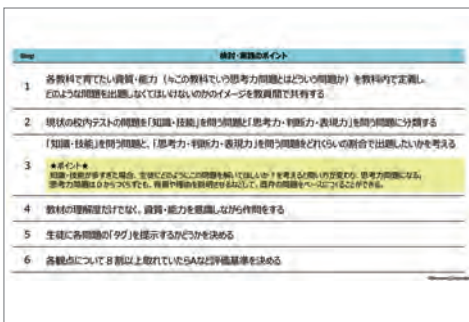


図4 校内テストを観点別に評価するためのステップ



ウェブセミナーでは、様々な学校の事例を紹介した。例えば、大阪府立鳳高校では、主体的に学習に取り組む態度の評価を単元シートを使って試行している(左)。倫理においては、単元の最初、途中、最後で自身の考えをシートに記入する。そうした形にすることで、生徒は成長を実感しやすく、自己評価の際の評価の妥当性を考える材料にもなる。生徒の振り返りの精度を上げることで、自己評価のエビデンスとすることができそうだ。

鳳高校の事例はこちらでご覧いただけます。
https://bhso.benesse.ne.jp/hs_online/shinkatei/report/dl/shinkateievent_2021082.pdf

評定への換算方法は？

3観点の重みづけと、 評定換算の仕組みを考える

観点別評価と評定のひもづけについて、どのような方法が考えられるか、セミナーでは5つのパターンを紹介した(図5)。3観点を1:1:1の同じ比率で評価するか、3観点の重みづけを変えるのか、大きくは2つの考え方に分

図5 評定の主な換算パターン

観測	換算	合計点
① 3観点の合計点方式 (A=3, B=2, C=1など)		合計点
② 各観点の総括的達成状況を100%で計算し、その平均に基づいて算出		平均点
③ 各観点の総括的達成状況を100%で計算し、それを5段階評価ABCの組み合わせで算出		組み合わせ
④ 思考力・判断力・表現力に重みづけをした評定換算方式		組み合わせ
⑤ 思考力・判断力・表現力に重みづけをした評点化方式		合計点

図6 思考・判断・表現に重みづけをした評点化方式

* 図2～6は、ウェブセミナーの投影資料を掲載

かれる。その上で、各観点の合計点や平均点で評定を出す方法、「A Bなら5」「A B Aなら4」など、A B Cの組み合わせによって評定を出す方法があることを解説した。

青森高校では、評定換算の際、3観点のうち学校として特に重視する思考・判断・表現に重みづけをすることを検討している。(図

6)。同校が考えているパターンの1つは、3観点のA B C評価の組み合わせであらかじめ評定を決めておく方法だ。同校では思考力・判断力・表現力の育成を重視しているため、知識・技能と思考・判断・表現、主体的に学習に取り組む態度がそれぞれ「A A Bなら5」「A B Aなら4」というように、A B Cの数が同じであっても評定が異なる設計となる。

また、A B Cの組み合わせではなく、思考・判断・表現に重みづけをした評点換算表を作成し、A A Aを100点として、評点換算と評定を対応させる方法も考えている。なお、基本は5点刻みで換算されるが、評定の2と3は10点刻みの設計になっている点は、学校としての評価の考えを、評定を通じて生徒や保護者に伝えようとしているとも言えるだろう。

評価方法と評定の換算方法、いずれも今ある取り組みを生かしながら設計していくことが重要だ。

まとめ

新課程1期生入学を半年後に控え、学習評価の検討に苦心している学校は多い。まずは、2学期の期末考査を観点別に作問・採点して、各教科少なくとも1つの単元について、「主体的に学習に取り組む態度」を、ウェブセミナーで紹介した振り返りシートなどを参考に評価してみることを勧めたい。重要なのは、実践してみて、そこから軌道修正をすることだ。本コーナーの実践事例も参考にしながら、一步を踏み出していいただきたい。

新課程に関する情報は、『ハイスクールオンライン』でお届けします！

- ・新教育課程の参考になる特設コーナー設置
- ・過去のオンラインセミナーのアーカイブ動画・資料などを掲載！

新課程レポート

『ハイスクールオンライン』トップページ>新課程からアクセス

https://bhs.benesse.ne.jp/hs_online/shinkatei/index.shtml